

平成27年度

## 病害虫発生予察注意報(第2号)

平成28年 3月15日

神奈川県農業技術センター

病害虫名 : イネ縞葉枯病  
原因ウイルス : イネ縞葉枯病ウイルス *Rice stripe virus* (RSV)  
媒介虫 : ヒメトビウンカ  
作物名 : 水稲

1 発生地域 県内全域

2 発生量 多

### 3 注意報発令の根拠

- 2016年1月7日～2月19日に県内22地点の水田畦畔からヒメトビウンカ越冬世代幼虫を採集し、イネ縞葉枯病ウイルス(以下「RSV」)の保毒虫率を簡易ELISA法により調査した結果、21地点でRSV保毒虫を確認した。平均保毒虫率は6.0%(n=2612頭)であった(図1,表1)。
- 2016年1月7日～2月19日に県内17地点の水田内でヒメトビウンカの越冬世代虫密度を吹き出し法により調査した結果、平均密度は20.9頭/9m<sup>2</sup>(定点14地点)であり、平年比「やや少」であった(表1)。
- 以上より、RSV媒介虫であるヒメトビウンカの越冬世代密度は低いが、RSV保毒虫率が2014年以降高い状態が継続していることから、2016年水稲作本田におけるイネ縞葉枯病発生量は、平年に比べ多くなるものと見込まれる。

### 4 防除対策および防除上の注意事項

- 水稲初期生育における媒介虫の水田飛来によるRSV感染と水田内での感染拡大を抑制するため、ウンカ類に効果のある育苗箱施薬剤を施用する。
- また、2016年のツマグロヨコバイ越冬密度183.6頭/9m<sup>2</sup>(定点14地点)は、平年比「多」であるので、薬剤選択に際してはツマグロヨコバイにも適用のある薬剤を優先する。
- 田植前および作期をとおして、RSVの寄主植物やウンカ類の生息場所となる水田周辺雑草の除草管理を徹底する。
- 本田防除は、育苗箱施薬剤の効果が低下する時期に、農業技術センターの病害虫情報を参考に、ヒメトビウンカの発生状況を把握し、適期に行う。

## 5 防除薬剤

農薬使用の際は、適用作物、使用時期、総使用回数をラベルの表示により必ず確認すること。

○ヒメトビウンカに対して効果が期待できる薬剤の例(2016年3月2日現在)

### 【育苗箱施薬剤】

薬剤名	系統	使用時期	使用回数	使用量	ツマグロ適用
アドマイヤーCR箱粒剤	4A	は種時(覆土前)～移植当日	1回	50g/箱	あり
グランドオンコル粒剤	1A	移植3日前～移植当日	1回	50g/箱	あり

### 【本田施薬剤】

薬剤名	系統	使用時期	使用回数	使用量	ツマグロ適用
アルバリン粒剤またはスタークル粒剤	4A	収穫7日前まで	3回	3kg/10a	あり
トレボン粒剤	3A	収穫21日前まで	3回	2～3kg/10a	あり

注)表中の「系統」はIRACの作用機構分類サブグループ名を記載。異なる記号は作用機構が異なることを示す。

## 6 主要データ

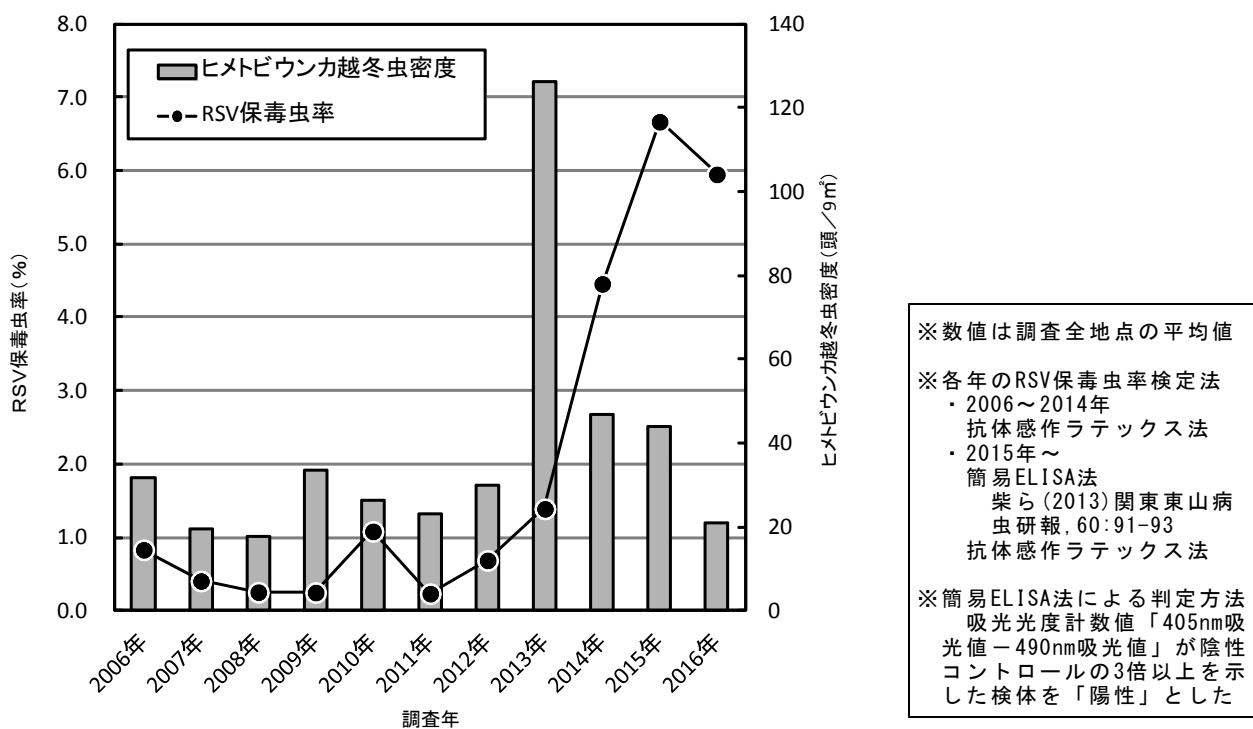


図1 ヒメトビウンカ越冬世代のRSV保毒虫率と密度の経年推移

表1 採集地点別ヒメトビウンカ越冬世代のRSV保毒虫率と密度

ヒメトビウンカ採集地点 <sup>z</sup>			保毒虫率(%) <sup>y</sup>		密度(頭/9m <sup>2</sup> ) <sup>x</sup>		
			2016年	2015年	2016年	2015年	平年値
通常調査	相模原市	当麻 <sup>△</sup>	7.5	5.8	11	19	26.3
	藤沢市	大庭 <sup>△</sup>	0.0	8.6	29	2	12.3
	海老名市	本郷 <sup>△</sup>	8.3	6.7	8	1	15.2
	厚木市	飯山 <sup>△</sup>	1.7	5.8	9	45	73.4
	伊勢原市	下谷 <sup>△</sup>	5.0	7.5	1	109	50.7
	伊勢原市	串橋 <sup>△</sup>	3.3	9.2	20	174	175.9
	平塚市	寺田縄 <sup>△</sup>	0.7	4.7	130	171	49.4
	小田原市	桑原 <sup>△</sup>	1.7	5.0	10	7	21.0
	厚木市	三田	6.7	5.8	15	9	—
	南足柄市	竹松/千津島 <sup>△</sup>	5.8	4.2	14	5	37.4
	横浜市	北八朔 <sup>△</sup>	12.5	4.2	4	6	5.2
	座間市	新田宿	3.4	10.8	23	6	—
	平塚市	広川 <sup>△</sup>	8.3	9.2	7	39	28.2
	秦野市	下大槻	3.3	9.2	50	36	—
	小田原市	栢山 <sup>△</sup>	6.7	4.2	20	28	16.5
	開成町	吉田島 <sup>△</sup>	3.3	5.8	19	2	12.7
	厚木市	戸田 <sup>△</sup>	4.2	—	11	14	34.7
	短期調査	相模原市	葉山島	8.3	—	—	—
愛川町		角田	5.8	—	—	—	—
海老名市		下今泉	21.9	—	—	—	—
平塚市		北久保	5.0	—	—	—	—
大井町		金子	7.5	—	—	—	—
平均値	保毒虫率	通常調査	4.8	6.7			
		短期調査	9.7	—			
		全調査地点	6.0	6.7			
	密度	定点調査			20.9	44.4	39.9
		(平年比)			(やや少)	(並)	
		全調査地点			22.4	39.6	—
供試個体数 (頭)	通常調査	2068	1923				
	短期調査	544	—				
	全調査地点	2612	1923				
調査地点数 (地点)	通常調査, 密度定点	17	16	14	14	14	
	短期調査	5	—	—	—	—	
	全調査地点	22	16	17	17	17	

- z) 「通常調査」は病害虫防除部および生産環境部による保毒虫率・密度調査  
「短期調査」は2016年より3年間の予定で病害虫防除部および普及指導部による保毒虫率調査  
△記号を付した地点は、密度調査における「定点」を示す
- y) 検定は、簡易ELISA法(n=120/地点)による  
ただし、藤沢市大庭 2015年:n=93, 座間市新田宿 2016年:n=118, 海老名市下今泉 2016年:n=64  
また、平塚市寺田縄は抗体感作ラテックス法(n=150/地点)による
- x) 9m<sup>2</sup>(30m×30cm)/地点の吹き出し法、「平年値」は過去10ヶ年密度の平均値

神奈川県農業技術センター 病害虫防除部  
〒259-1204 平塚市上吉沢1617  
TEL 0463-58-0333 FAX 0463-59-7411  
http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f450002/